

平成 30 年度 資源評価調査報告書（資源動向調査）

都道府県名	高知県	担当機関名	高知県水産試験場
種名	マルソウダ	対象水域	高知県海域

1. 調査の概要

- ・ 主要漁業の漁獲量データ収集（曳縄・定置網）とCPUE算出（曳縄）
- ・ 体長測定及び精密測定

2. 漁業の概要

- ・ 高知県では主に県西部の曳縄及び東部の定置網によって漁獲される。
- ・ 曳縄では11月～6月に、定置網では5月～6月にまとまった漁獲がある（図1、2）。
- ・ 曳縄での漁獲量は、そのほとんどが県西部の土佐清水及び下ノ加江で水揚げされている。
- ・ 近年、高齢化や他漁業への転換などで曳縄漁業者の減少が懸念される。

3. 生物学的特性

- ・ 全長組成：2017年～2018年に定置網及び曳縄で漁獲された個体の尾叉長組成の主体は18.8cm～39.8cmで、主体は月によって大きく変化した（図3）。6月と8月で組成が大きく異なったのは、小型の魚が新規加入したためと考えられる。
- ・ 成熟：生殖腺指数（GSI）は6月に最も増加し、本県沿岸における産卵期は夏期と考えられる。

4. 資源状態

- ・ 県西部の曳縄による漁獲量は、1980年代までは増加し、1995年に12,000トンを超えるピークを迎えたが、2001年以降は減少傾向で推移していた（図4）。2018年の漁獲量は4,271トンで、最低水準だった前年（2,243トン）及び平年（2012～2016年の平均：3,662トン）を上回った。CPUE（1隻当たりの漁獲量）は、2010年から2018年まで700kg前後で推移しており、2015年から減少傾向だったが2018年は増加した（図5）。
- ・ 2018年の県内の定置網による漁獲量は435トンで、前年（334トン）は上回ったが、平年（1,846トン）を下回った（図6）。
- ・ マルソウダの漁獲量は黒潮の離接岸や水温によって変動するほか（林 2014、梶 2015）、生息域が広範囲にわたる回遊魚であることから（Collette and Nauen 1983）、資源水準や動向の推測は現状では困難と考えられる。
- ・ 2017年以降定置網の漁獲量が減少していることから、近年の来遊量は減少している可能性がある。

5. 資源回復に関するコメント

- ・ 環境による影響を考慮し、資源水準の動向について注視していく必要がある。

引用文献

- 林芳弘（2014）室戸岬沿岸の大型定置網におけるマルソウダの漁獲状況 黒潮の資源海洋研究 第15号 63-70
- 梶達也（2015）高知県海域におけるマルソウダ漁況の変動と気候のレジームシフト 黒潮の資源海洋研究 第16号 65-73
- Collette and Nauen（1983）Scombrids of the world. An annotated and illustrated catalogue of tunas, mackerels, bonitos, and related species known to date. FAO species catalogue, 2, FAO Fisheries Synopsis, pp. 137

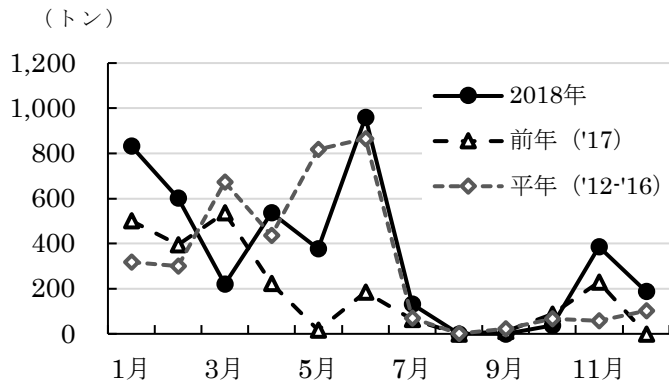


図1 曳縄の月別漁獲量（県西部2水揚地）

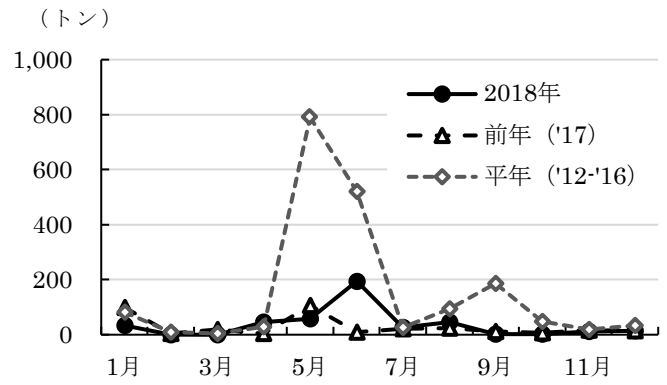


図2 定置網の月別漁獲量（県漁協全体）

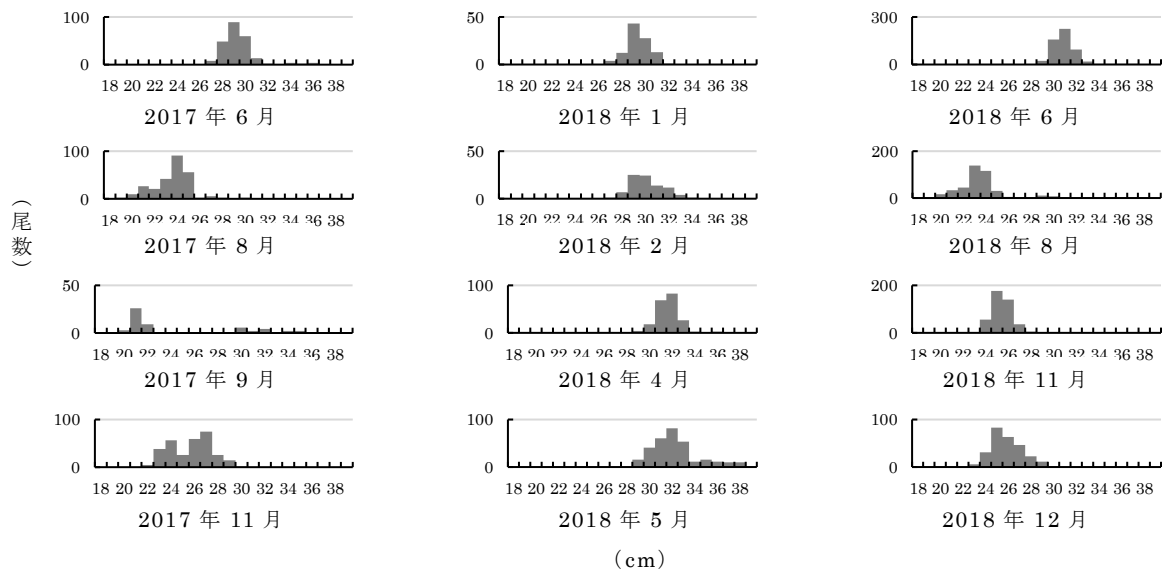


図3 尾叉長組成

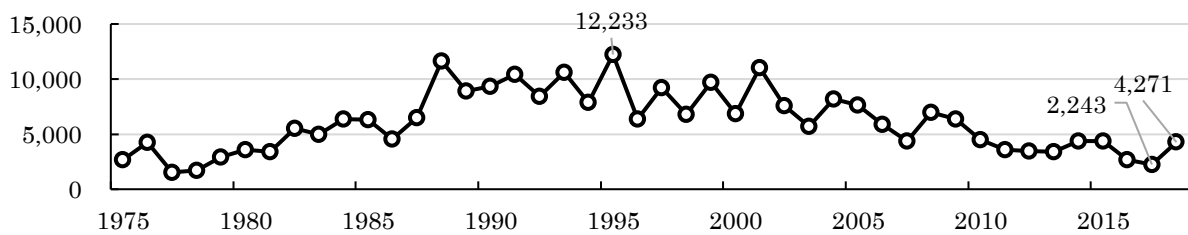


図4 過去の県西部曳縄によるマルソウダ漁獲量

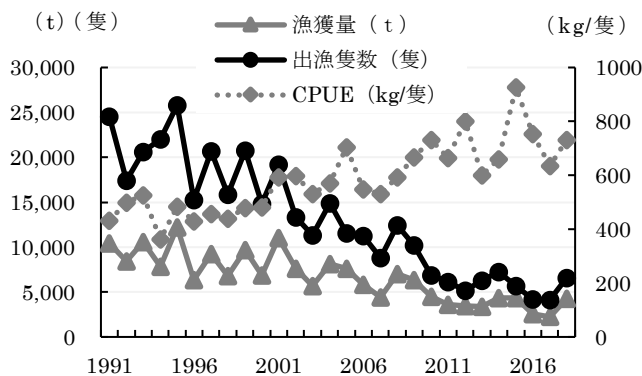


図5 曳縄の漁獲量、出漁隻数及びCPUE

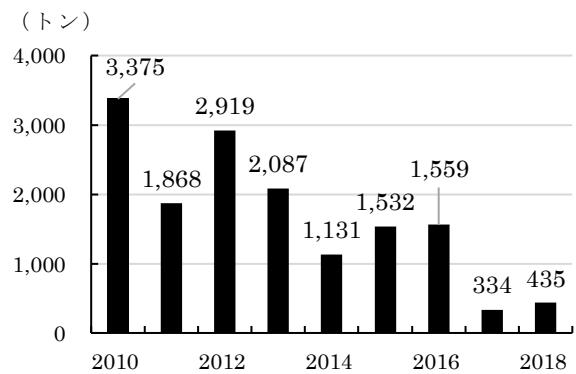


図6 定置網の漁獲量